



本間利雄といのちの電話

山形いのちの電話 理事 本間 弘
本間利雄設計事務所 代表

山形いのちの電話の元・後援会長で、本間利雄設計事務所の創業者で建築家の本間利雄が2018年9月に召天してから間もなく1年9ヶ月になります。山形いのちの電話の活動は本間自身の生き方の根源的なことと重なり合うように思えます。

「一日一生～豊かな感性を～」と題した寄稿文（2014年11月・50号）には設立から支えて下さっている多くの方々への感謝と、何よりもボランティアで活動いただいている相談員の方々への敬愛と感謝の言葉のあとに次のようにあります。「(前略) 人生はただ一度。人生を真剣に生きること。私も二十代の若い頃、辛いことがあって小国町叶水にある基督教独立学園の校長室を訪ね、創立者の鈴木彌美先生にお会いすると何も云えなくなるのです。その校長室に掲げられている内村鑑三先生の書「一日一生」。今日一日を大切にすべきこと。それに尽きるのです。今日は再びやって来ないので、どんなことにも全力を傾けて真実の展開です。(中略) どんなに「苦」であっても、それは感性として心の中に積んでいけるのです。苦しい時の感性は苦を乗り越える力になります。」

私の故郷にブナの原生林があり、歩くのが好きで今年も4回ほど歩いています。不思議な力を与えられるのです。この自然のエネルギーが私の感性に沁みこんでいきます。よろこびも美しさも苦勞も、すべてその人の体験からその人の感性は積み立てられるものです。感性を豊かにするという、それは生きるよろこびを一層豊かにしてくれるのではないかと考えています。」

青年時代の本間にとって鈴木彌美先生からの教えはまさに精神と感性の背骨のような骨格を形づくられたのだと思います。学園はまさに本間にとっての「我が家」でした。お会いして何も言わなくとも、先生といろいろな話をするその時間は本間の辛さを溶かしてくれていたのではないのでしょうか。

本間利雄が地域に生きる建築家としてとても大切に考えてきたことは、何よりも「地域の人々と共に生きるよろこび」でした。山形で生まれ育ち、多くの人たちのおかげで建築家になった。そうした自分をつないでくれた地域の人たちに少しでも役立ちたい、恩返しをしたい。それは地域の大地をこよなく愛すること、明日への希望を次の時代

へつなぐための環境・景観づくりのお役に立てること、地域に根づいた建築を求めて探求することなど、これらの思いのすべてにつながる根源的なものでした。

ひとり一人が離されて孤立化していくのではなく、いろいろな苦しくつらい気持ちに寄り添うように、お互いがお互いの心を近づけていけるように、そして共に生きるよろこびを感じることができるように、小職も本間利雄の想いと意思を継ぎながら微力ながら少しでも皆様のお役に立てればと思います。



山形県小国町小玉川・飯豊山（写真提供 N. S）

相 談 員 の 声

いのちの電話のすべてに感謝

Y・N

四 半世紀いのちの電話にお世話になっております。最初の相談員募集の新聞記事を見たとき、人前で話をするのはとても苦手だけど、聴くことならできるかもしれないと思ったのでした。相手の話をさえぎったり、こうしたらいいよとアドバイスをしたりしないで、ただうなずくだけでも相手は話を聴いてもらったと満足するものだという事は実生活でも実践していきたいことです。なかなかそうは行かないことも確かです。

相談員は皆、個性的で、持ち味もそれぞれ違います。月2回、3時間ずつというゆるい活動のなかで、義務を果たし、実生活でエネルギーを取戻して、次回に臨むことができます。

研修の先生方とも長いおつきあいになりました。先生方も生身の人間、紆余曲折がおりになっても、我々と付き合い続けてくださっています。所詮、ボランティアと安易に流れがちになりますが、持続するうちに目に見えないくらいの力がついてきて、人間力がアップするような気がします。生涯教育に「いのちの電話」ほどよいものはないと思います。

居心地のよい環境を作ってくださっている、後援会の皆様、事務局員の皆様、そして相談員の仲間たちに感謝します。

私はあなたの味方でありたい

M・T

仕 事と家庭だけの日々に少々の物足りなさを感じ、違う世界に踏みこんでみようという「いのちの電話」の相談員になって10年余りが経ちました。この間、世の中はどう変わってきたでしょうか。格差社会、様々なハラスメント、減らない過労死、ブラック企業、ひきこもり、8050問題、孤立する家族、児童・高齢者虐待、多発する自然災害、そして今現在、世界規模で拡散しているコロナウイルス禍ショック。この他にも挙げればキリがない程、目を覆うばかりの世の中になり果ててしまっている全く夢も希望もありやしない。それでも、普通の生活が出来て、おいしく食べて、安心して眠れ

て、誰かと気持ちが通じ合うことが出来れば、たいがい幸福であると言えるでしょう。

しかし、ここに電話をかけてくる方は孤独に耐えしのんでいたり、生きづらい思いを抱えて心が弱っている方がほとんど。安心して過ごせる居場所がない人でも、ひとときの電話を通して繋がる事が出来たら、話すことで少しでも気持ちが楽になるのであればとの思いでこれまで続けてきました。相談者のためのボランティアなのに、逆に自分自身の内面と向き合わざるを得ない場面や、考えさせられることも多々ありましたし、見識を広めることが出来たように思います。相手が何を望んで何を話したくてかけてきたのか、感情に寄り添い、想像力を持って「私はあなたの味方でありたい」との思いでお役に立てれば本望です。

安心できる場所

M・S

私 が相談員を始めて早くも5年以上がたちます。昨年行った3年目研修では初心を思い出し、有意義な2日間を過ごすことができました。相談員の仲間には年代が幅広く色々な経歴や職歴をもつ方がおられ、色々な話が出来ることが、私自身の糧になっています。

電話相談や研修を受けるようになって、人間の様々な考えに興味を持つようになりました。先日先輩相談員と2冊の本の話題で盛りあがりましたが、歯に衣着せぬ言い方がとても素敵な方で、この時も「どんな所が興味あったの？どう思った？」とズバツと聞かれ、うまく答えられず恥ずかしかったのですが、同年代の友人とは話せない話題でも、なぜか相談員の方とは話せる場所があるという事が、私がこの活動を続けられてきた理由のような気がします。

「誰にも言えない気持ち話してみませんか」という「いのちの電話」のスローガンの様に、私にとって安心して語ることが出来る場所があるように、この世の中で困っている人がいたら寄りそうことの出来る場所であっていただけなら良いと思います。インプットだけでなくアウトプットをする事って、生きていく上で必要不可欠なものですからね。

声が教えてくれること

K・M

私 たち相談員は相談者（電話の掛け手）のお話しに傾聴することを基本に対応させていただいています。相談者に寄り添うことの大切さを研修等を通じて学び、より良い相談員であることを目標に電話をとらせてもらっています。

相談員を始めた当初は『傾聴すること』を意識していたためか、妻との会話や会社の仲間の相談事等は『聴ける』ようになったと感じていましたが、やはり『いのちの電話』のようには聴くことが出来ず、何が違うのか疑問に思っていました。最近、その理由のひとつが『電話を介した会話』と『直接の会話』の違いによるのかと考えるようになりました。

そのように考えてみると、『電話』に関するいくつかの記憶がよみがえってきます。

学生時代に下宿の大家さんから「お母さんから電話ですよ」と呼ばれて大家さんの茶の間の隅の電話で母と交わした二言三言、仕事で数日間出張した際に妻と交わした自宅に居る時と同じような普通の会話、息子が県外で暮らしていた時にたまに（メールではなく）電話をしてきた時のたった数秒の会話など、今思い返すと、直接会った時には感じる事のない喜びや安心

感・温かさを感じたことを覚えています。

内容は普通の連絡等であっても、ほんのわずかな言葉のやりとりが、相手の気持ちや自分の心情を伝えてくれるのが電話なのかもしれません。

電話相談では相談者の“声”しか伝えてくれませんが、その“声”は色んなことを教えてくれるように思います。相談員の経験が浅い私にはまだわかりませんが、相談者の“心の奥”を開かせてしまうことがあるかもしれませんし、私たち電話を受ける側の“心の中”も相談者に伝わっている時もあるかもしれません。

電子メールやLINEでのやりとりや、テレビ電話のようなやりとりも普通に出来るようになった現在、『いのちの電話』は昔ながらの電話だけを使った相談活動を行っています。それは「電話による相談」が相談者（掛け手）・相談員（受け手）双方にとって最適な手段であり、これからも「悩みを話したい、聴いてもらいたい」方にとっては大切なものであり続けるからではないでしょうか。

「今日、あなたのお話しを、そしてあなたのお気持ちを確かに受け止めさせてもらいました」という気持ちが少しでも相談者に伝わることを意識しながら“電話”に向き合っていきたいと思います。

あなたの「力」を
貸してください!!

第23期 電話相談員養成講座のご案内

= 研修は、自分を見つめ直し、良き仲間を見つける機会でもあります。 =

いのちの電話とは いのちの電話は、自殺予防を主な目的とした電話相談です。ひとりひとりの「いのち」を大切にする立場から、不安や苦しみに悩んでいる方のよき隣人として、電話での対話を通し、援助していこうとする民間のボランティア活動です。



詳細は「山形いのちの電話」のホームページをご覧ください。お問い合わせは「山形いのちの電話」事務局までお電話下さい。（事務局執務時間 平日 午前10時~午後4時）

REPORT



※参加合唱団 山形県立山形西高等学校

今年早々の1月13日、山形いのちの電話後援会の主催により800人収容の山形テルサホールで、シュガーシスターズのチャリティコンサートを行いました。ピアノ伴奏に及川礼章さんを迎え、応援には山形西高校の合唱部の皆さんの美しいハーモニーを披露していただきました。開演に先立ち、井上弓子後援会長から当法人長谷川憲治理事長にチケット売上金の一部を寄附金として贈呈がありました。

第1部、懐かしい「春色のうた」に始まり、「奥の細道うた紀行」と続き圧巻の「最上川舟歌」で盛り上がり、第2部、おなじみの優しい歌で会場との一体感が生まれ、さらに西高音楽部が加わり会場は一気に最高潮になりました。

開催関係者の間では、この達成感から来年もがんばろうとの声が上がっていましたが、今年になって新型コロナウイルス感染拡大とその対応策等で三密回避や集会施設の閉鎖などで、コンサートの企画や準備が困難になりました。今は、来年の開催は検討中と申し上げるしかありません。

コロナ関連では、各地のいのちの電話センターで運営の上で少なからぬ支障を来しています。活動を休止したり規模を縮小したりとの対応が見られます。一方では、こんな時にこそいのちの電話活動をとの期待の声もあります。山形いのちの電話は、活動拠点の清潔を保ち、相談員や

ご家族の健康を第一にしながら、電話相談を継続しています。

これからますます社会不安が募ることも懸念されます。いのちの電話も精一杯がんばって参ります。皆様のご支援もよろしくお祈りします。

事務局日誌

11月2日	相談委員会	18日	運営会議	26日	広報委員会
7日	事務局会議	19日	東北ブロック会議（仙台）	29日	相談委員会
	ボランティアリーダー会	26日	ソニー生命保険 寄付金贈呈式	3月4日	山形新聞社 寄付金贈呈式
10日	自殺予防いのちの電話	1月4日	相談委員会	5日	事務局会議
11日	N T T山形支店 寄付金贈呈式	7日	事務局会議	10日	自殺予防いのちの電話
13日	コンサート実行委員会		ボランティアリーダー会	15日	研修委員会
14日	研修委員会	10日	自殺予防いのちの電話		認定会議
17日	相談委員会 総会	13日	第17回チャリティーコンサート （山形テルサ）	25日	理事会
19日	運営会議	16日	研修委員会	4月4日	相談委員会
21日	広報委員会	21日	運営会議	8日	内部監査
30.1日	電話相談学会 大会参加（東京）	30日	山形新聞広告掲載	9日	事務局会議
12月1日	庄内三役会	2月6日	研修担当者研修会（東京）	10日	自殺予防いのちの電話
	男性相談研修会（福山清蔵先生）	8日	合同研修委員会	11日	第21期養成講座 認定式
3日	事務局会議	10日	自殺予防いのちの電話	16日	理事会（書面決議）
8日	F D研修会（加藤博仁先生）	10日	事務局会議	5月7日	事務局会議
10日	自殺予防いのちの電話	13日	事務局会議	10日	自殺予防いのちの電話
12日	コンサート実行委員会	20日	拡大運営委員会	19日	評議員会（書面決議）
14日	支援ボランティア会議		山形市ネットワーク会議		

▶名刺サイズの「あんしんカード」を作りました

ココロがつかれたら
電話で話してみませんか

相談電話は
023-645-4343
毎日13:00～22:00受付
社会福祉法人山形いのちの電話

毎月10日は
自殺予防いのちの電話

時間 午前8時から**24時間**対応

自殺予防いのちの電話
(フリーダイヤル)

TEL 0120-
783-556

編集後記

広報61号をお届けいたします。
61号、還暦です。還暦は、数え年で61歳を寿ぐ習わしです。
相談員ボランティアは、認定を受けて間もない方から、1,500時間以上もの長い時間電話相談にかかわってくださっている方と様々です。
相談者にとっての「善き隣人」として、相談員お一人おひとりのペースで、長く続けていただけるようにと願っています。古希に向かって……。 (む)

社会福祉法人 山形いのちの電話

事務局 〒990-8691 山形中央郵便局私書箱第99号
電話/023-645-4377(事務用) FAX/023-645-7795
発行人/長谷川憲治 編集/広報委員会

※この広報誌は、共同募金からの助成で作りました。